

令和6年4月19日

学校外での子供の多様な学びに関する 有識者会議

第4回資料

第4回有識者会議での主な議論

○昨年度の有識者会議では、学校外での子供の多様な学びの場・居場所の創出に向け、検討の方向性・施策のあり方について様々なご意見を頂いた。

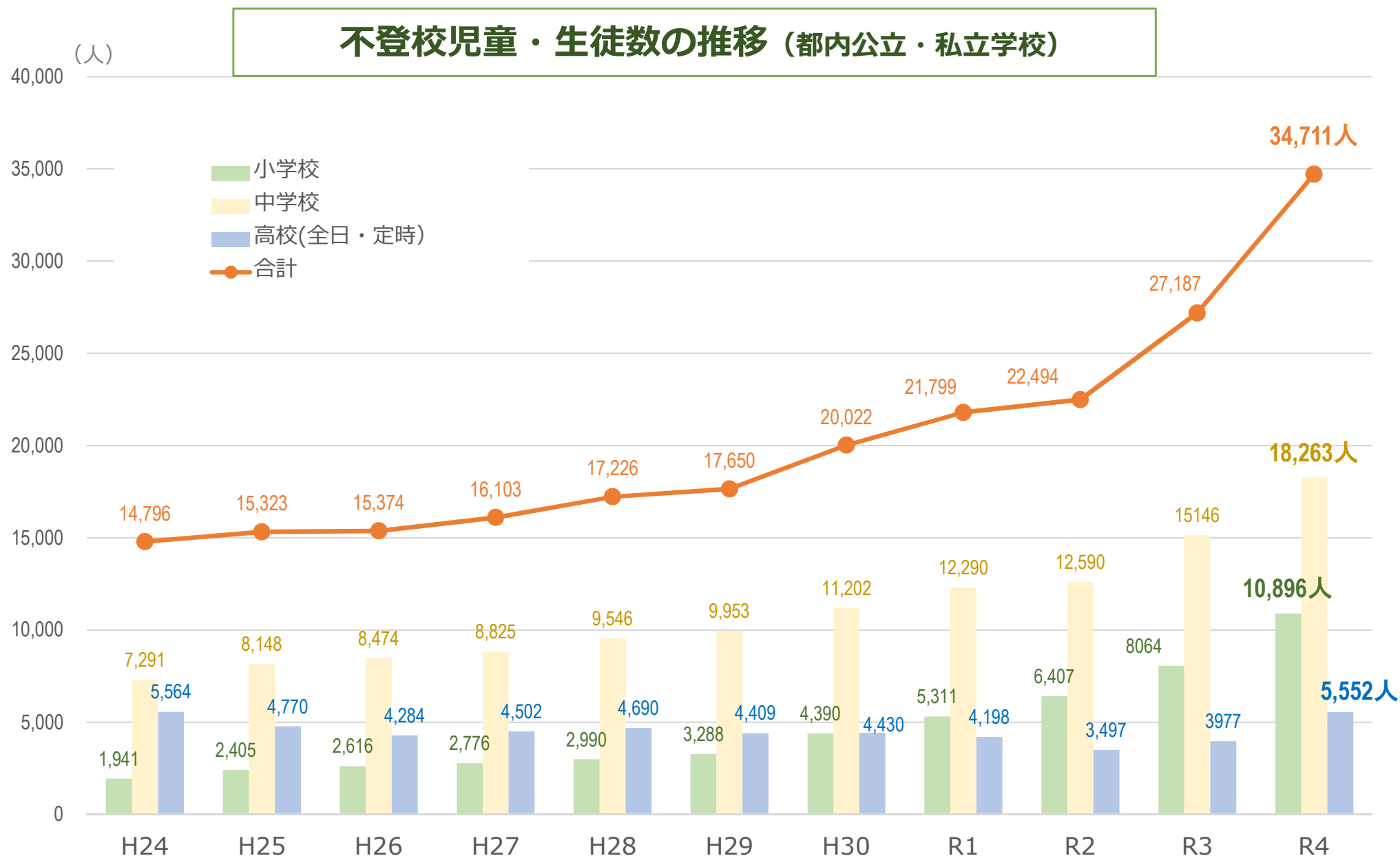


**「こども未来アクション2024」（令和6年2月）において、
「学校外の学び・居場所の創出」に向けた政策パッケージを公表し、
今年度から事業を展開**

1

学齡期の子育ちに関する 令和 6 年度の取組について

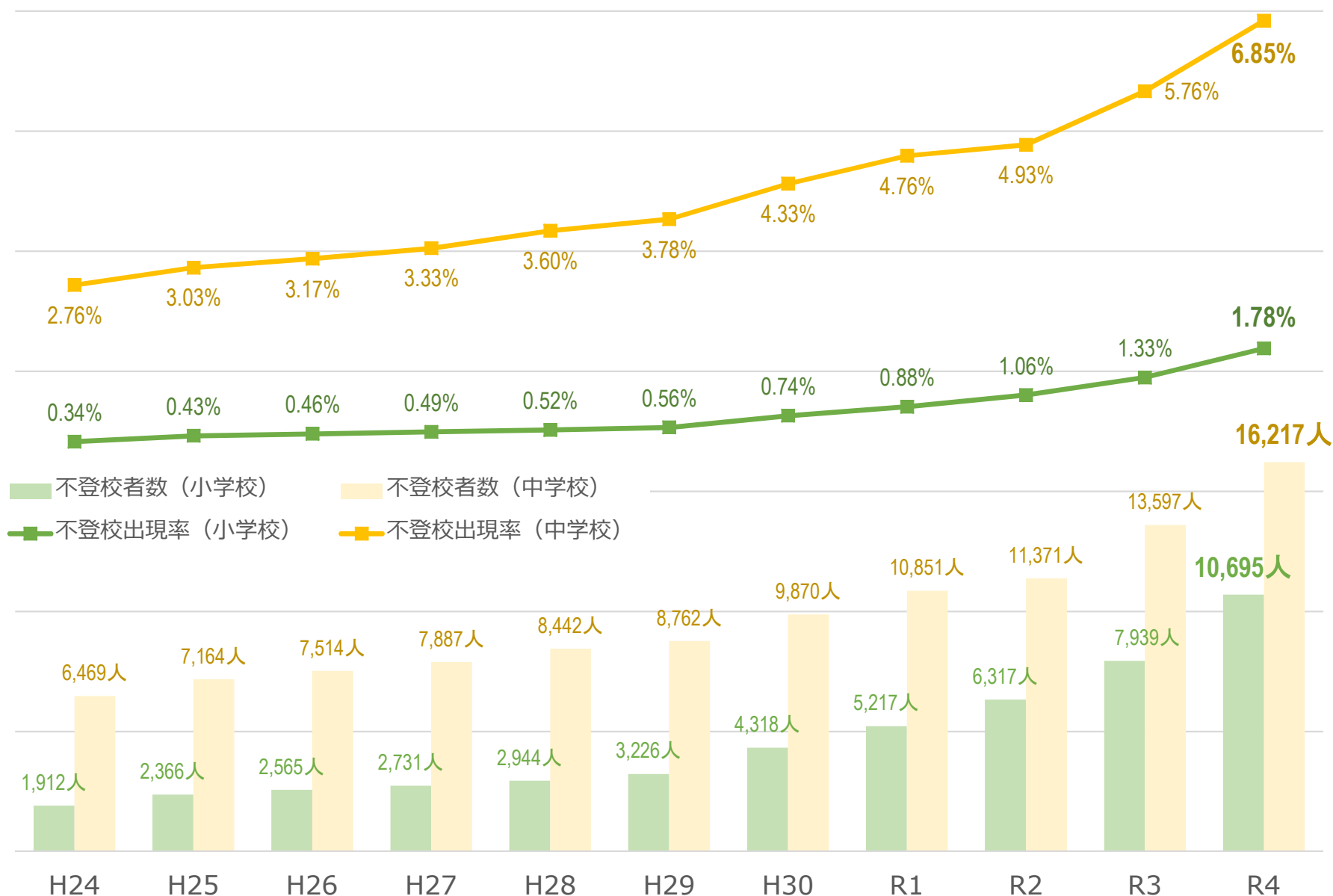
1-1 学齢期の子供を取り巻く状況について



（資料）東京都教育庁「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」及び生活文化スポーツ局「都内私立学校の児童生徒の問題行動・不登校等の実態」を基に作成

都内公立小・中学校の状況（１）

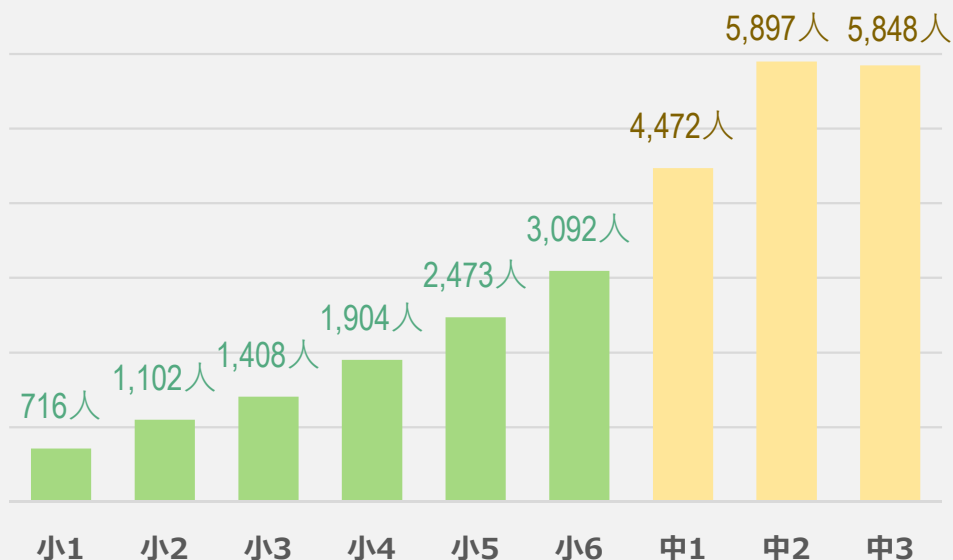
不登校児童・生徒数及び不登校出現率※の推移



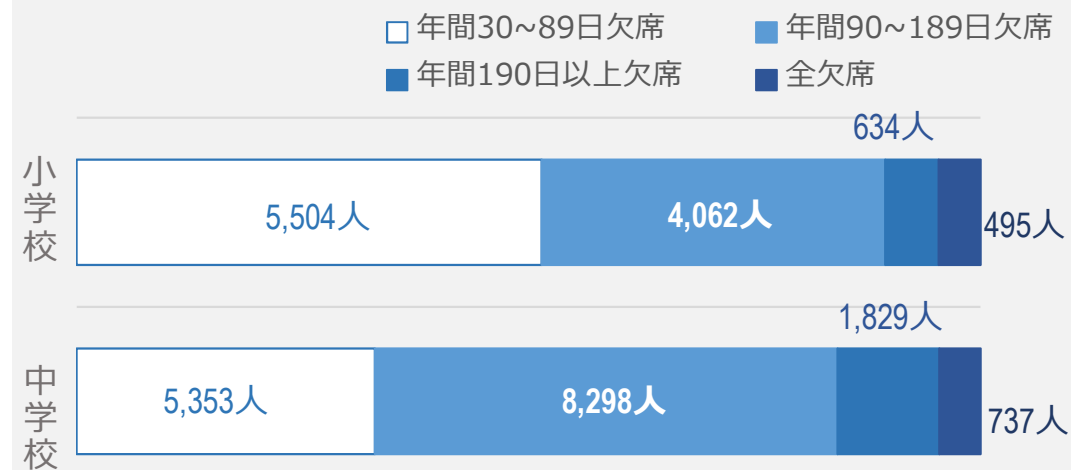
※（不登校児童・生徒数／在籍児童・生徒総数）×100

都内公立小・中学校の状況（２）

学年別不登校児童・生徒数
(令和４年度)



不登校者数の欠席日数の分布
(令和４年度)



相談・指導を受けた学校内外の機関等
(令和４年度、90日以上欠席の児童・生徒)

主な学校内外の機関等

学校内

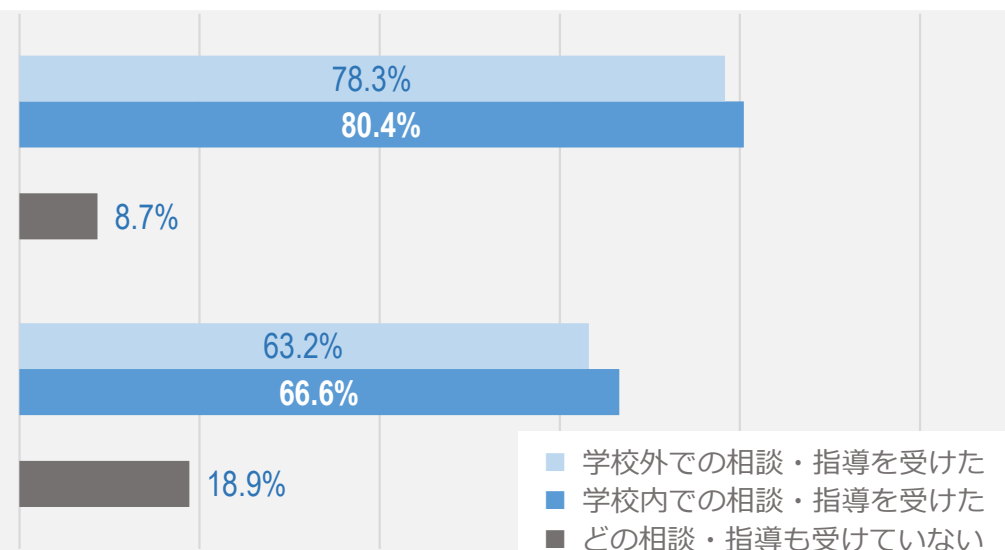
- 養護教諭
- スクールカウンセラー、相談員等

学校外

- 教育支援センター
- 児童相談所・福祉事務所
- 保健所・精神保健福祉センター
- 病院・診療所
- 民間団体・民間施設（フリースクール等）等

小学校

中学校



1-2 令和5年度教育庁調査研究事業※報告(途中経過)について

(R5.4~9月までの調査結果)

(1) 回答者数 保護者延べ 921 人 ※1人の保護者が、複数の児童・生徒について回答している場合がある

※フリースクール等に通う不登校児童・生徒
支援調査研究事業

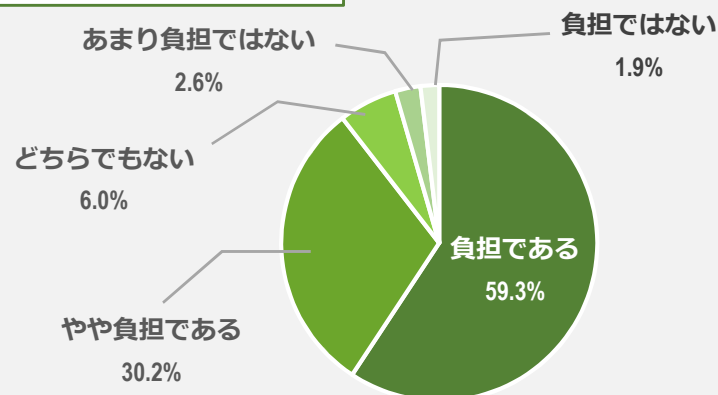
(2) フリースクールに通う保護者の状況 (有効回答のみ集計)

ア 授業料平均支払額

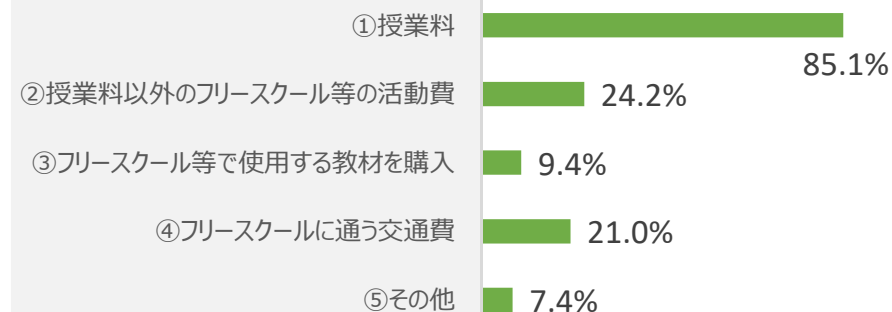
1か月当たり43,004円

※日単位の利用料や、
無料の施設は除く

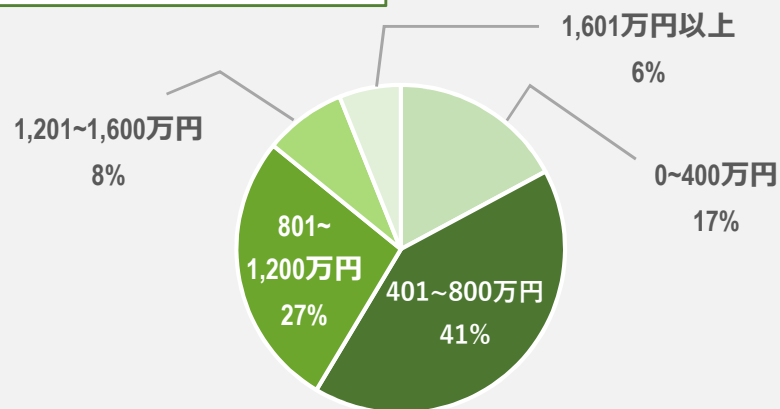
イ 家計の負担感



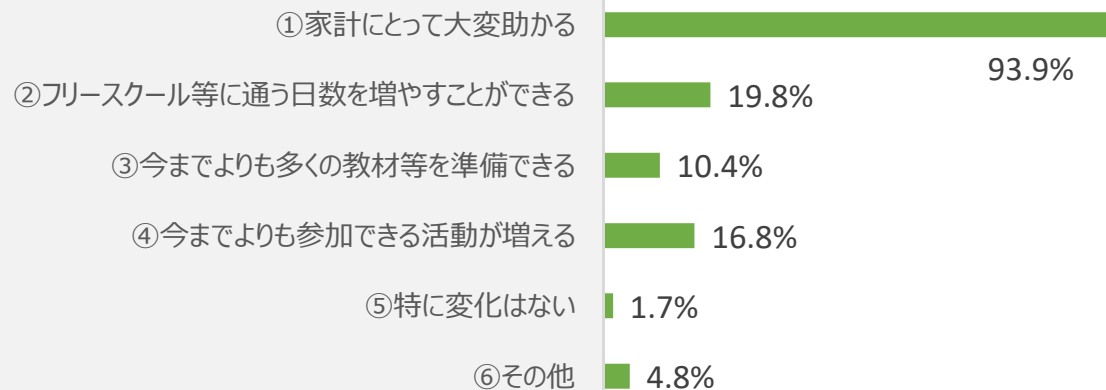
ウ 調査協力金の使い道



エ 世帯収入(年収の分布)



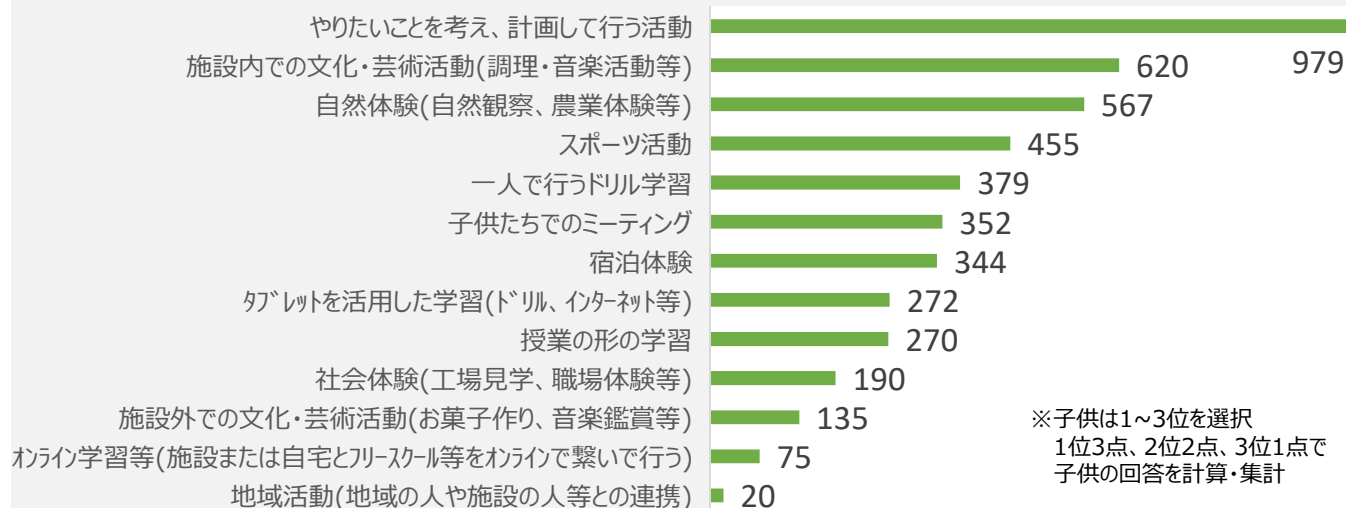
オ 調査協力金の収支面での効果



学校内外において、全ての子供の学びの場を保障することが必要

(3) フリースクールに通う子供の実態

ア 児童・生徒がフリースクール等で楽しさや興味を感じる活動



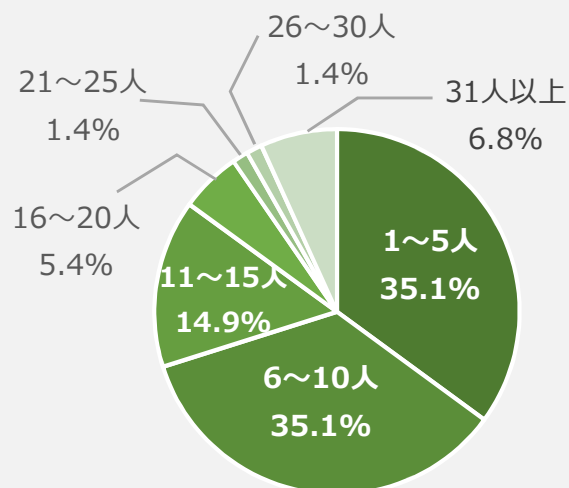
イ 保護者の意見(自由記述から)

- 得意・不得意の分野がある子供たちが、興味・関心を持てるよう、柔軟なサポートを求める。
- スポーツ、実験、社会体験など、体験的な活動の時間を増やしてほしい。

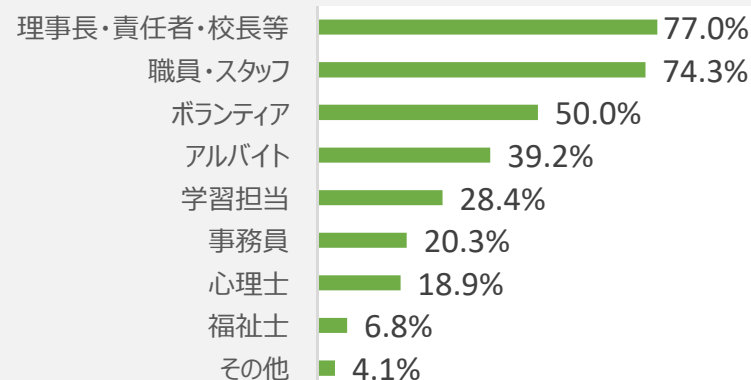
**子供一人一人の興味・関心に応じた
多様な活動の機会の確保が必要**

(4) フリースクールの現状 (施設に聞き取り、回答のあった74施設の状況を集計)

ア 1施設当たりの運営の人数



イ 職員の構成



ウ 運営上の課題

- 子供の支援を充実させるためには、スタッフを増やして、個別に対応できるようにすることが必要である。
- 体験活動を行うための場所が確保できれば、活動を充実させて、子供の意欲を向上させることができる。

**学校内外での学びを充実させるためには、
子供を支援する人材の確保が必要**

1-3 東京都の不登校対策等（公立学校）

令和6年度新規・拡充事業

※記載の規模は令和6年度予算

新規

チャレンジクラス(不登校対応校内分教室)の設置

- 不登校生徒の多様なニーズに対応するため、中学校にチャレンジクラス（不登校対応校内分教室）を設置し、指導を行う教員を配置するとともに、学習環境の整備等に係る経費を支援

中

中学校10校に配置
(各学年1学級、計30学級)

新規

不登校対応巡回教員

- 不登校対応巡回教員が複数校を巡回し、不登校の未然防止・早期支援・長期化への対応など、校内体制を整備

中

令和6年度
33人配置

拡充

校内別室指導支援員

- 校内の別室であれば登校できる児童・生徒に対して、指導や相談対応を行う支援員の配置に係る費用への補助について、実施校数を拡大し、児童・生徒が安心して自己存在感や充実感を感じられる場所を確保

小

中

高

合計405校
(小・中179校追加)

拡充

不登校特例校の設置支援

(本校型、校外分教室型)

小 中

- 生徒の実態に配慮した学校教育の実施

全体6校、1校増

拡充

エデュケーション・アシスタント(担任補佐)

小

- 担任を補佐する支援員を配置し、個別ケア等の支援を実施

62区市町村

拡充

教育支援センター機能強化補助

小 中

- 学校に通うことが難しい生徒に対する居場所づくりや学習支援等のプログラムを提供し、社会的自立を支援

補助対象47区市町村
(7区市町増)

拡充

バーチャル・ラーニング・プラットフォームの実施

小 中 高

- 仮想空間を利用した学びの場の提供(校内別室・不登校特例校等)

小・中 28区市町(20区市町追加)
高 新規17校

新規

スクールソーシャルワーカー

小 中

- 不登校を未然に防止する観点からガイドライン・研修体系を構築し、学校内外の支援体制を強化

ガイドライン策定・提供 全区市町村
巡回支援 4区市

拡充

教科担任制の導入

小

- 授業の質向上及び相談体制の構築

教員定数61人増

1-4 令和6年度の取組（学校外の子供に対する支援）

学校生活に馴染めず生きづらさを抱える子供が自分らしくありのままで成長できるよう、
「学校」及び「学校外」からのアプローチを車の両輪として、学び・居場所の多様な選択肢を創出

目指すべき未来

学校教育の更なる充実

 在籍校との連携

学校外の学び・居場所の創出

学校生活に馴染めず生きづらさを抱える子供の
学び・居場所の選択肢を多様化



「学校外の学び・居場所の創出」に向けた 政策パッケージの全体像

①利用者等支援

②フリースクール等支援

 ③多様な学びの調査研究

▽

学校外の多様な学び・居場所を創出するため、
子供の学び・成長を後押しする観点から、
新たに3つの取組を実施

(1) フリースクール等の利用者等に対する支援を開始

フリースクール等利用者の経済的負担を軽減

- 義務教育段階の子供が不登校状態を理由としてフリースクール等に通う場合に、その利用料に対する助成制度を創設(R 6 : 1,500人)

助成対象者

フリースクール等（※）に通う義務教育段階の不登校状態にある都内在住の児童・生徒
※不登校状態の児童・生徒に対する支援等を行うことを主たる目的とし、活動実績を有する通所型施設

助成額

月2万円（上限額）

助成対象期間

令和6年4月から（※）

※本事業の申請開始は、令和6年7月頃を予定しているため、申請開始以前の利用料も助成対象とする予定です。

保護者の抱える不安・悩みに対するサポート

- 保護者を対象とした勉強会や、保護者同士の交流会等を開催

【実施イメージ】不登校（傾向）の子供への接し方等に関する専門家による勉強会、フリースクール通所経験者による講演会 など

(2) 子供の活動支援の充実等を目的とするフリースクール等に対する支援を開始

子供を育むための機能をベースとしたフリースクール等支援を展開

- 子供一人ひとりの「サポートプラン」の作成など、子供目線に立った取組を行うフリースクール等に対する補助制度を創設するなど支援を開始

一人ひとりの実情を踏まえながら、**心の回復をサポートし、社会で自立する力を育成していくため、スクールに求める機能をベースに子供目線に立った支援を展開**

フリースクール等に求める子供を育むための機能

心の
ケア

社会との
つながり

多様な
学び

具体的な支援メニュー

子供の 活動支援

- ✓「サポートプラン」作成・実践に対する支援
- ✓活動の安全性向上に資する経費の支援
- ✓体験活動の充実等に必要な経費の支援
- ✓心のケアや活動の充実に資する専門家の派遣

スタッフの 資質向上

- ✓フリースクール等のスタッフ向けの研修開催、
- ✓子供の支援の充実に向けた資格取得経費の支援等

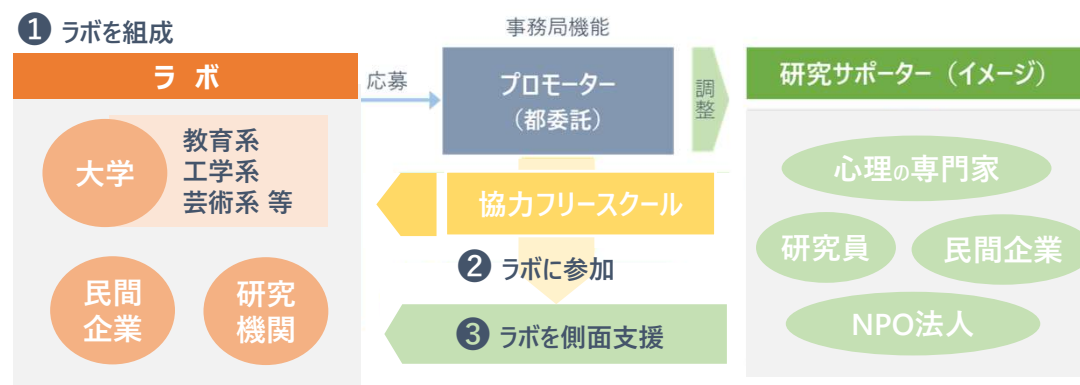
(3) 学校外の多様な学びの調査研究に着手

子供の興味・関心を引き出し、知的好奇心を最大化するメソッドについて調査研究

➤ 子供の興味・関心を出発点とした、一人ひとりの特長・特性を伸ばす学びの実施手法等について、大学等の専門機関と連携した調査研究を実施

調査研究スキーム

- ① 様々なリソースを有する大学や企業などにより調査研究を行う「ラボ」を組成
- ② 協力フリースクール等に通う子供のニーズを踏まえ、「ラボ」のテーマを設定し、子供が「ラボ」で行う活動に参加
- ③ 調査研究にあたっては、様々な分野の専門家である「研究サポーター」がラボを側面支援



メソッド研究の STEP

1	子供のニーズに応じて 学びのテーマを設定
2	テーマの中で 何に興味があるかを引き出す
3	興味を掘り下げ、学びたいものにつなげる
4	一人ひとりのニーズに応じた学びの企画・実践
5	実践した学びを通じた子供の変化を把握